

昨年12月16日、執行機関と議決機関のトップである両者が、これまでの町政や議会運営、本町の未来像や今後の抱負などをそれぞれの立場で語り合いました。

今号の特集企画として、その対談の一部をご紹介します。

『町長・議長対談』



新十津川町長／熊田 義信

選挙から2年が経過しましたが、これまでを振り返って評価や感想を聞かせてください。

熊田町長 先人が築き上げた町をしっかり守り、基幹産業である農業の維持と、今住んでいる方々が喜んで生活を続けてくれるよう、子育て支援、教育の充実、高齢者の方々が安心して住

み続けられる環境整備に重点をおいたまちづくりを進めてきました。議会も精力的に活動していますから、協働のまちづくりが着実に前進していると肌で感じています。

長谷川議長 まちを変えるには「議会が変わらない」という意識で進んできました。今期に関しては、1期目議員5人を含め、チームとして議会改革を進めていくという意識でスタートしています。その成果として、傍聴者が増えてきていることや報告会への多くの参加など、住民がたくさんの思いを伝えてくれていてという分では良い形になってきていますし、それを受けて熊田町政も住民目線でどんどん進んでいると感じています。

熊田町長 議会のスキルがすごく上がってきていると感じています。それに行政が追いついていくというのではなく、やはり行政は中心となっていていかなければならない。そのことから職員のスキル向上と自ら学ぶ意欲が大切です。町のためにという心構えが職員の成長につながり、行政サービスの充実につながる。私はそのトップという立場で職員とうまく連携していきます。

長谷川議長 私たちは町長が目指すものに、良いものは「良い」、悪いものは「悪い」というスタンスをとりながら、住民の立場で進めていかなければなりません。住民の思いを我々がしっかり受け止めて、町への働きかけを町民に理

解してもらつような説明責任をきちっと果たすことが必要です。議会と行政とがうまく連携しながらやっていくということが、最終的に目指すところへ早く行ける近道かもしれませんね。

熊田町長 議長が「議会改革」とおっしゃっていましたが、12月定例議会の一般質問でも7人と多い状態が継続されています。議員が町民の声を代弁してくれているのですから、私も適切な情報提供をして、良い緊張感を保ちながら意思疎通を図っていききたいですね。

これからの新十津川をどんな町にしていきたいですか？

熊田町長 端的に言つと「住みよい町」ですが、住めば都で、住んでいるところは愛着があり、一番住みやすい場所になっています。そこに住み続けることができるような交通体系、冬場の生活や買物の利便性、そういったものが一番重要になってくると思っています。

長谷川議長 町長にお願いですが、農村地区にいますとそういった面での不便が多いので、中央地区に高齢者が住んで、日常の用事や病院にも行ける高齢者向けのケア住宅がある程度の時期にきた段階で是非考えていただきたい。さらには、若い世代と高齢世代がうまく共存し、支え合う社会をどう創るか、議会としても民生委員との懇談会やワークショップを通じて住民の声を町に